

混合交通を観察する
DOCUMENT
series—168
Eye

●信号機のない横断歩道での高齢歩行者の渡り方とクルマの対応を観察する
信号機のない横断歩道を渡った高齢者42名中
横断する前に左右の安全確認を行なった人21名

●WHY

高齢者は横断歩道をどのように渡っているか？

昨年1年間の交通事故による死者数は7702人で、1957年以来、実に46年ぶりに8000人を下回った。だが、

減少しているとはいえ、平成15年中の歩行中の交通事故死者数で65歳以上の高齢者の占める割合は63・8%（警察庁交通

局資料より）と高い。

実際に高齢者はどのように横断歩道を渡り、その時に接近する車両がどのような対応をとっているか。夜間、外出時の高齢者の服装はどうか。東京都内でも高齢者の住んでいる割合が比較的高い文京区で、信号機のない横断歩道を渡る高齢歩行者を観察してみた。

●WATCHING

急に斜め横断する高齢歩行者も

観察地点の周辺には商店街やスーパーなどがあり、買物客が通行していた。観察時間の気温は約4・7℃と肌寒く、日も早かった（日没は午後4時49分。80分間に観察地点周辺の横断歩道を横断した65歳以上と見られる高齢者は計42名。このうち左右をしっかりと見て安全確認を行なったのは21名。片側しか確認を行なわなかった例を含めると、左右の安全確認を行わずに横断歩道を渡った高

齢歩行者は全体の5割もいた。高齢歩行者が横断歩道を横断しようとする時にクルマが接近したのは6台（四輪車4台・二輪車2台）。このうち、横断歩道の手前で徐行か一時停止をしないクルマが5例もあった。クルマが高齢歩行者を優先して停止したのは1例だった。このケースは70歳を超えたと見られる男性が横断歩道を渡るうとした時、クルマが接近。ドライバーはこの男性の存在を確認し、一旦停止した。この男性が横断を終えてゆっくりと歩道を歩き始めたので、クルマも発進した。その後、再度この男性は急に道路を斜めに横断し始め、ドライバーは急ブレーキをかけて停止するという状況になった。このように高齢者はドライバーの予期せぬ行動をとることがある。この歩行者の男性は周囲の確認を行なっていたように見えたが、すぐに視線を下向きにしてしまったため、接近するクルマの存在に気づかなかったようである。

このケース以外にも斜め横断する高齢歩行者が目立った。逆に、ほとんどの高齢歩行者がポケットに手を入れずに歩いていたことは好印象だった。

高齢歩行者の服装に関しては男女ともに黒っぽい服装が多かった。反射材を衣服等に装着している例は、残念ながら確認できなかった。

このほか、観察地点では無灯火の自転車や数多く走行しており、高齢歩行者との出会い頭の接触事故も懸念された。



横断歩道の手前で徐行や一時停止するクルマは少なかった

高齢者の中には身体能力の低下などにより、思ったように身体が動かせない人もいる。歩く速度が遅かったり、周囲の予想に反して急に立ち止まったり、フラフラと進路が定まらずに歩くケースもある。信号機のない横断歩道ではクルマは一時停止して歩行者に道を譲らなければならない。特に、歩行者が高齢者の場合にはその行動特性を理解し、ドライバーには高齢者に対する「いたわり」と「思いやり」の気持ちを持ってほしい。

高齢歩行者の行動特性を考慮した運転を

●PROPOSE

都市部では終夜営業のスーパーやコンビニエンスストアがあり、かなり遅い時間帯であっても買物に出る高齢者の姿を見かける。

●信号機のない横断歩道での高齢者の左右確認有無(42人中)

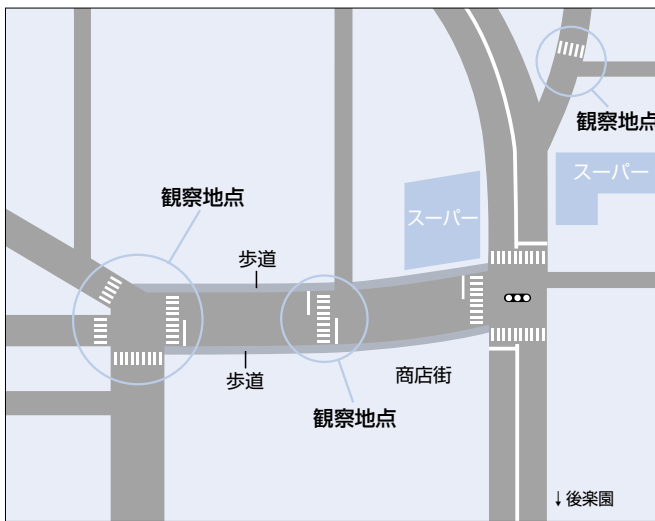
左右の安全を確認した 21人	どちらか片方の安全を確認した 11人	全く安全確認をしなかった 10人
-------------------	-----------------------	---------------------

左右の安全を確認しなかった人 21人

※高齢者（65歳以上）の判断は観察者の見解による

●横断しようとする高齢歩行者とクルマについて

	四輪車	二輪車	合計
停止した	1	0	1
そのまま通過	3	2	5
合計	4	2	6



- 観察場所／東京都文京区小石川2-25付近
- 観察日／1月14日(水曜日)
- 天候／晴
- 観察時間／17:30～18:50
- 観察者／4名

日没後も買い物などで外出する高齢者が見つけられた

